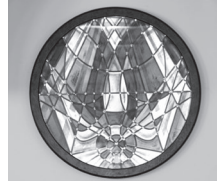


カトリック山形教会報 かすみ

カトリック山形教会報

12

2022.12.24



カトリック山形教会

〒990-0039 山形市香澄町2丁目11-15 TEL.023-622-3574 FAX.622-3590
ホームページ <http://www.catholic-yamagata.com/>



「わが家」

ワルヨ神父 FRANCISCUS XAVERIUS SRI WALUYO

遠くの山はもう薄らと雪化粧。冬支度に心急ぐ一方で、一旦落ち着いたように見えるコロナ感染者がまた増えるのではないかと心配しながら過ごしているこの頃ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

12月是一年間を振り返る季節です。私たちキリスト信者は、今年は11月27日から待降節に入り、クリスマスに向けて、心や生活のあり方を神に向け直す期間です。

今年11月12日は私たち、山形教会の信者にとって特別の日、神に祝福された時でした。神の民の家族として、信仰の喜び、つまり新しい司祭館、イエズス・マリアの聖心会修道院の祝福の中で集まることができる、非常に特別で祝福された時です。神様に感謝いたします。皆様に感謝です。

ご存知のように、教会前の、「東原・村木沢線」の都市計画道路拡張の為、今年4月より、司祭館の建て替え工事が始まり、10月に完成いたしました。工事中は、多くのご不便と、ご迷惑をおかけしましたが皆様にご理解とご支援を賜り、感謝いたします。

明治時代の建築をしのばせた、旧司祭館は昭和13年に創設され、84年の間、多くの山形県民・近隣住民に愛されて参りました。歴代、関わって下さった司教様方、そして山形教会100年にわたり神父様方が沢山の思い出と教えをしっかりと残してくださいました。新しい司祭館の外観はその面影を思い起こさせてくれます。うれしい限りです。

山形教会共同体の皆様が何年もかけて計画を進め、ついに完成した新司祭館。これからの福音宣教の拠点として、神がその歩みを導いてくださいますように。おめでとうございました。

皆様「我が家」司祭館にどうぞ気楽にいらっしゃってください。いつでも来てください、待っています。皆様のためにいつでも私はここにおります。神様の偉大な業を共に語り合しましょう!そしてたくさんの人々に知られるように、福音宣教の活動のためにも。皆さんと共に頑張りたいとおもいます。

司祭館新築工事までの歩み・経過報告

司祭館新築工事が無事終了しました。

祝賀会で、私の頂いた役目は、司祭館新築工事の経過報告と言うことでした。建築工事自体の進捗状況については、今年4月から毎日曜の御ミサのあと、皆さんの目で直接ご覧になったとおりですので、その前、建築工事着手に至るまでの経過を皆様に報告させて頂きたいと思えます。

教会前道路の拡幅については、数十年前から教会内でささやかれており過去の教会資料を見ますと、信者会館建設の時に駐車場を考慮した「2階に司祭館を」の案もあったこと。そして信者会館は新道路に合わせて作られていますが、いつしか話題になることもなく過ごしてきたように思えます。

山形県村山総合支庁用地課の話によりますと都市計画道路(駅環状道路—山形駅を囲む東西南北道路))として計画承認されたのは1992(H4)年12月、今年からさかのぼり30年前となります。

そして、本計画が具体的に動いたのが2014(H26)年8月(8年前)、「事業認可を得るための現地測量に関する説明会」の案内が新潟教区事務局へ届いたことです。当時の本間神父様から説明会へ出てくれるように話があり、私が係わるようになったのはこのときからです。

以後、山形市の道路計画、山形県の道路事業の施策概要、街路事業にそった「まちづくり」の勉強会等が年1、2回行なわれ、本年6月に「東原・村木沢線・木の実町工区街づくり委員会」が発足しました。当教会が入っている町内会でこれからもこの活動が実施されていきます。

そして3年前の2019(H31)年3月、事業認可(計画決定より26年目)をうけ用地測量、物件調査等の計画概要が説明され、現在用地買収が進められており、令和6年度終了予定となっています。

私達の山形教会は、令和4年度の用地買収に計画され(県には令和3年度をお願いしていた)それに合わせて今回の旧司祭館の撤去・新築工事を行ない、県買収予定地(現在の更地部と出入口のアスファルト舗装部)を生み出し、今日11月12日が事務上の引渡日となっています。

次に、私達教会内での新築までの大きな流れを顧みますと

- ◎ 「司祭館新築のための準備会」発足について
2014(H26)年の山形県からの事業認可の準備の連絡に合せ、
2016(H28)年6月に「司祭館新築のための準備会」発足を提案しましたが、実現は出来ませんでした。
- ◎ 新潟教区への調書「司祭館建設」の提出
2017(H29)年9月、新潟教区より各小教区へ、「教会建物の建設・改修・補強工事計画の調査」があり、主任司祭と検討のうえ、
所要資金4,100万、自己資金2,500万(補償費)
借入金 1,600万(新潟教区より)で提出しました。
- ◎ 司祭館建設積立金の設置(かすみ掲載)
2018(H30)年6月、遅ればせながら司祭館建設の為の積立預金が出来ましたが、通常行なわれるような計画的に皆様をお願いしての積立ではなく、信者さんに迷惑をかけない範囲での条件で設置された、コーヒー売店、ミョウガ販売、バザー収益金、祭儀献金以外の寄付金、死者の月献金等、一般会計科目以外の寄付金を貯蓄。それでも2021年末で金額は120万円となり、解体工事に入り山形県からの補償金が送付されるまでの間(10月~12月)、旧司祭館内の用品の産廃処理、マンションへの引越し及び生活費に充当できました。
- ◎ 司祭館新設のための特別部「財務部」発足
2019(R1)年9月 建築三社からのプランの提出を決定・実施。
- ◎ 第1回財務部会(新メンバー2名増員)
2021(R3)年4月、「司祭館新築事業計画作成について」検討。
新潟教区に報告。
- ◎ 司祭館新築事業進捗状況新潟教区へ報告
2021(R3)年6月 教区「顧問会」で披露(ワルヨ神父様)



昭和13年フィンゲル神父時代に建てられた「旧司祭館」



旧司祭館の面影を受け継ぎ、聖堂との調和もとれた「新司祭館」



成井司教様の司式による司祭館新築祝別ミサ



新司祭館の建設の経緯を報告する柴田財務部長



司教様も新庄教会のみなさんに誘われて壇上へ

- ◎ ・司祭館新築工事審議願い評議会提出・承認 2021(R3)年7月
 - ・山形教会司祭館新築工事概要 各信者さんに配布
 - ・山形教会内司祭館新築工事 公示(7/25~8/22)
- ◎ 山形県 土地売買・物件補償額決定 2021(R3)年8月
- ◎ 新潟教区に下記提出 2021(R3)年9月
 - ・山形教会用地の売却に伴う司祭館取壊し及び司祭館新築工事許可申請書
新潟教区提出…教区責任役員会承認
- ◎ 新潟教区・山形教会内に建物広告公示 9/25~10/10
- ◎ ・山形県・新潟教区・土地売買・物件補償11月8日契約締結
 - ・司祭館建設契約説明会後、升川建設と契約
- ◎ 司祭館建設起工式 2022(R4)年 4月18日
- ◎ 司祭館新築工事起工式 2022(R4)年 5月21日
- ◎ 新館引渡受け 2022(R4)年10月17日

以上が教会内での司祭館完成までの主な流れですが、財務部員の方には上記各項、太字部の資料作成等の為の検討会、建築材・調度品等の見学等、2021(R3)年4月以降その部会数は22回。2021年11月升川建設との契約説明会からは評議会に協力を頂き、これまでの「財務部立案→評議会が検討承認」の手順による時間の無駄、検討の重複を省くために合同会議を実施、工事竣工までの間、14回を重ねました。本当に感謝致します。

山形県との土地売買契約等では、土地の最終引渡日が2022年12月23日までと決められており、実施できたこと本当によかったと思っています。

教会内での建築等は、宗教法人として様々な規則にしばられた手続きがあり一般会社等では考えられないもどかしさを感じました。進めていくためには、皆様の日常生活を犠牲にした協力なしに完成することは出来なかったこと、今、つくづく感じています。まだ終わった訳ではありませんが、これまで約2年の間に関係されたすべての皆様に、討議・そして2回に渡る引越し作業、現場及び製品等の確認、信者会館の部屋の整理、祝賀式・祝賀会など、いつも前向きに対処して頂き本当に有難うございました。

2022年11月12日 洗礼者ヨハネ 柴田 博



コロナ禍の新潟教区信徒大会開催を模索

ヨハネ 小林 雅人

11月23日(日)、「新潟教区を繋ぐ、次世代に向けて」をテーマに第21回カトリック新潟局信徒大会が新潟県のカトリック長岡教会を主会場にZOOMで各会場を繋ぎ開催されました。本来ならば昨年開催するはずでしたが、コロナ感染者数の増加により、一年様子をみようということになり、今年開催となりました。

今大会は、コロナ禍でも開催するのか、さらに延期するのか、また開催するとすれば、どのような形で開催するのかなど数か月にわたり会議を重ねてきました。各県の開催準備委員の皆さんの御苦勞に感謝いたします。

準備委員会の会議もLINEやZOOMを活用し、はじめの頃、教会によっては高齢の方にとって通信を使っての会議も難しく、また、途中で通信が途切れてしまい会議自体の進行もうまくいかなかったこともありました。

やはり、開催は難しいのではという意見もありましたが、「コロナ禍でできる大会」を模索しながらオンラインという新しい形の大会になりました。大会プログラムは何度も修正が加えられ、なかでも司教ミサのネット配信は正式なミサに参加したとは認められておらず、各県のサテライト会場(山形県の場合は米沢教会、山形教会、鶴岡教会)でミサが行われることに変更されました。すべての教会がネット環境が整って、通信に詳しい信

者さんがおられるわけではないため、大変苦勞をされたのではと思われ、今後の課題でもありました。

また、オンラインの利点としては、個人で参加(ネット配信を受ける)できることで、パソコンや携帯電話を活用し、会場に行けない事情がある方でも参加が可能なおことにより、多くの方が参加できたことです。

大会は、成井司教の自己紹介、司教と信徒の座談会(高齢者、海外出身者、青年の代表の信徒)、青年の活動紹介、各教会の紹介などを行いました。(詳細はカトリック新聞に掲載されましたのでご覧ください。)

今回のZOOM大会参加人数は486名、22の教会、2つの修道会で、予想以上の結果だったと思います。

次回の大会開催は山形県です。先日、新潟で行われた司祭評議会では2025年に開催してはどうか、という意見も出されたようです。(この年が25年ごとの聖年にあたるということで…)これまでのように、ひとつの会場に集まり、信徒の交流も深めながらの大会にするのか、今回のように会場に行けない信者も参加できるオンラインにするのか、両方を取り入れた形にするのか、早くも期待されておられるようです。

今回は試行錯誤をしながら開催された「第21回新潟教区信徒大会」の報告をさせていただきました。

カトリック施設の置かれている現状について

パウロ 沼沢 敬志

8月4日に、新潟教区内で「幼稚園」「こども園」「保育園」を経営する法人代表者と成井司教との意見交換会に出席した際に、カトリック施設が置かれている現状について皆様にも知っていただきたいと感じることがありましたので述べさせていただきます。

現在、全国的に司祭やシスターが園長等の責任者を務めているカトリック施設は減少傾向にあり、未信者が責任者を務めている施設も多くなっています。少子高齢化による司祭、修道者の減少等の要因が大きいようですが、福祉・教育施設の運営には高い専門性が求められており、専門分野のプロフェッショナル達が連携して活動している、言わば“プロ集団”を統率するためには、幅広い知識と経験も必要とされます。また、制度を正しく理解し運営することも行政から求められていますので、経験のない人がすぐに施設の責任者となるのが難しくなっていると云えるでしょう。「山形聖マリアこども園」のように司祭が園長として在籍している施設は恵まれているといえるのかも知れません。「みこころの園」では、シスターがパート職員として勤務して頂いていますが、「マリアこまくさ保育園」では、シスターの勤務はありません。司祭についても、法人の理事およびカトリック精神に基づく施設運営が出来るような指導と助言を頂くチャプレンとして参画頂いている状況で、司祭・修道者が管理者として携わっていない状況が10年以上続いています。

ほとんどの職員が未信者の環境で、カトリック精神の理解を深めることは難しく、司祭・修道者がその場に居

ることの影響力は非常に大きいと改めて感じています。管理者が未信者の場合は更に強くその思いを懐いているようです。

これまで、園長としてご尽力いただいた司祭やシスターの力と、定期的にカトリックの教えについて研修していることあり、職員の多くは、利用者だけではなく職員同士でも相手を尊重し丁寧に接することが出来ており、私が教えられることも良くあります、歴史が成せる業と云えるのかもしれませんが、しかし、その時々によって、研修で得た知識と感覚(心)が一致せず、どのように行動すべきか迷い悩んでしまうこともあるようです。カトリック信者であっても、カトリックの教えを行動や言葉として表すときに迷うことが多々あるわけですから、未信者であれば尚更だと思います。それでも、悩みの中にあっても、一步一步あゆみを進めながら仕事をしている姿には感心させられます。

カトリック施設としてのアイデンティティーを保っていくことは、司祭・修道者に任せておけばよい時代ではなく、信徒が施設に関心を持って、何らかの形でかわり続けることが今まで以上に大切になって来ていると感じています。コロナ禍にあって、行事等での交流が阻害されている状況では、今までのようにバザーやお祭りで交流を図ることは難しいですが「私たちの施設」として、施設に集うすべての人々が喜びを持って生活できるように祈っていただけたらと思います。また、乳幼児や高齢者のために一緒に働く信者の方、特に次世代を担う若い方が少しでも増えることを願っているところです。



11月5日(土)晴天のなかで行われた墓地ミサ



11月13日(日)七五三の祝別を授ける千原神父(今年、銀祝を迎えられました)

45年の私の信仰生活をふり返って

スコラチスカ 小笠原 明子

洗礼を受けて早や45年が過ぎました。思い起こしてみると、移りゆく社会の価値観や道徳的な事もその時その時に変わってゆくのに疑問がありました。その中で出会ったのが、三浦綾子さんの『塩狩峠』です。その本の中で自分の命を犠牲にしてまでも人を想う姿に感銘を受け、誰かの為に生きていくという生き方をしたい、と思いキリスト教の門を叩きました。プロテスタント教会その他、何か所かに通って勉強してみましたが、いざ入信となるとその教えに疑問を感じ、普遍的なものを求めていた私にはいずれも納得できず、前に進むことが出来ませんでした。そのような時に出会ったのがカトリック教会でした。川又神父様のお話を聞き勉強を続ける中で、神さまの愛を感じ、私の求めていたものと実感し洗礼の恵みを授かりました。神さまがいつも見守って下さり、日常生活も楽しく感じる様になった事を覚えています。

子どもを授かり、私が一番大事に思っているイエスさま

の生き方を、子ども達三人にも共に生きてほしいとの思いがあり、幼児洗礼の恵みに授かりました。信仰を育てる事の大変さと、毎週教会に通うのも容易な事ではありませんでした。神さまの導きと山形教会の皆さまに子ども達をいつも可愛がっていただいた事を思い出します。そして悩み、祈りながら、神さまと共に子育てを出来た事に感謝しています。

近年、テレビを見た時に、子育てをしていく中で強い孤独を感じるという若いお母さんの話を聞きました。幸いに私はいつも神さまの愛に満たされて、子育てを終える事が出来ありがたいと思っています。

今、私は保育園で働いています。忙しく子育てをしている若いお母さん達に、神さまと共に祈りながら、子育てのお手伝いをしてゆきたいと思っています。思い起こせば、その時その時に私をいろんな場でお使い頂いたんだな、と感謝しこれからも神さまの思いを大事にして、信仰生活を生きていきたいと思っています。

編集後記

10月13日、山形県の一週間のコロナ新規感染者10万人当たりの数値が全国一位となっていました。ラーメン消費金額全国一位の座を新潟県に奪われた山形県ではありますが、感染者数一位は不幸なことです。

そんな中、司祭館新築祝別式を無事に終えたことを、神様に感謝いたします。

祝別ミサの中で成井司教様は、新しくできた司祭館は、そこに住む人、利用する人、ともに歩む人々が留ま

広報部 フェリペ・フランシスコ 関根 光一

る場所であると同時に、社会に開かれ、出向いていくための拠点ですとおっしゃいました。

また、この新司祭館と共に立つ、私たちの美しい教会の存在も、意外と山形市民には知られていないのが現状ではないでしょうか。

そこで、カトリック山形教会紹介のリーフレットを作成しました。皆様に活用していただければ幸いです。

カトリック山形教会
(洗礼者聖ヨハネ教会)

〒990-0039 山形市青葉町二丁目11-15
2-11-15 Kasumicho, Yamagata-city
Tel. 023-622-3574 Fax. 023-622-3590
URL: <http://www.catholic-yamagata.com/>

◎ 29号線、右側30㉔

カトリック山形教会
(洗礼者聖ヨハネ教会)

- 聖堂正面鐘楼 聖堂正面の鐘楼は1956年に完成した。この鐘楼は、山形県内では珍しい、鐘楼の上部に十字架を飾り、鐘の音を響かせる構造になっている。1956年(昭和31)年、鐘楼の上部に十字架を飾り、鐘の音を響かせる構造になっている。1956年(昭和31)年、鐘楼の上部に十字架を飾り、鐘の音を響かせる構造になっている。
- 聖堂全貌 2014年(平成26)年の改修で、内外ともに一新された。この聖堂は、山形県内では珍しい、鐘楼の上部に十字架を飾り、鐘の音を響かせる構造になっている。
- よき牧者のキリスト像 聖堂正面のキリスト像は、2014年(平成26)年の改修で、内外ともに一新された。このキリスト像は、山形県内では珍しい、鐘楼の上部に十字架を飾り、鐘の音を響かせる構造になっている。
- 実徳の十字架 聖堂正面の十字架は、2014年(平成26)年の改修で、内外ともに一新された。この十字架は、山形県内では珍しい、鐘楼の上部に十字架を飾り、鐘の音を響かせる構造になっている。
- 日ノ内聖堂の洗礼者聖ヨハネの像 聖堂正面の洗礼者聖ヨハネの像は、2014年(平成26)年の改修で、内外ともに一新された。この像は、山形県内では珍しい、鐘楼の上部に十字架を飾り、鐘の音を響かせる構造になっている。
- 聖堂内 (おみどり) 聖堂内は、2014年(平成26)年の改修で、内外ともに一新された。この聖堂内は、山形県内では珍しい、鐘楼の上部に十字架を飾り、鐘の音を響かせる構造になっている。
- 日ノ内聖堂の洗礼者聖ヨハネの像 聖堂正面の洗礼者聖ヨハネの像は、2014年(平成26)年の改修で、内外ともに一新された。この像は、山形県内では珍しい、鐘楼の上部に十字架を飾り、鐘の音を響かせる構造になっている。
- 山形聖マリアこども園 1958年(昭和33)年、山形県立小の附属施設として、このこども園が設立された。このこども園は、山形県内では珍しい、鐘楼の上部に十字架を飾り、鐘の音を響かせる構造になっている。